

音楽科学習指導案

大阪教育大学 兼平佳枝

【準備】

- ・柱は七＝ラを基準とし、1 3 絃全て大まかに平調子に調弦しておく。
- ・爪有り（親指のみ）
- ・2 人で1 面

1. 指導内容：

〔共通事項〕 音色（箏の基本的な奏法「しっかり弾き」と音色）
〔指導事項〕 (2) 器楽 ア、イ(イ)、ウ(ア)

2. 単元名：箏の基本的な奏法「しっかり弾き」の音色を意識して《さくらさくら》を弾こう

3. 対象学年：中学校第1 学年

4. 教 材：《さくらさくら》日本古謡

5. 教材について

【音楽の背景】

桜は日本人にとって春の到来を象徴する花であり、子ども達にとっては入学式や卒業式を象徴する花であるともいえる。そもそも、《さくらさくら》の主旋律は、江戸時代末期に箏の手ほどき曲『咲いた桜』として作られた。山田流の手ほどき用の楽曲としてまず普及したと考えられ、明治 21(1888)年に、「箏曲集」に選曲されたものである。そのため、初めて箏に触れる可能性もある中学生にとっては、取り組みやすい楽曲となっている。

【音楽のかたち】【音楽のなかみ】【音楽の技能】

親指につけた爪で、絃の手前から次の絃に向けて押しつけるように弾くのが、箏の基本的な奏法である。この基本的奏法について、本指導案上では「しっかり弾き」と呼んでいるが、「〇〇弾き」のように子どもに命名させてもよい。親指につけた爪で絃を上向きに弾くように弾く「ひっかけ弾き」と比較聴取させることで、「しっかり弾き」によるはっきりとした力強い音色を知覚・感受させたうえで、「しっかり弾き」によってもったイメージを意識して《さくらさくら》を演奏する技能を身に付けさせたい。

6. 指導計画：(全3 時)

ステップ	学 習 活 動	時数
経 験	爪のつけ方と基本的な奏法である「しっかり弾き」の弾き方を知る。 ペアで交代しながら、爪をつけて《さくらさくら》を弾く。	1
分 析	箏の基本的な奏法「しっかり弾き」と「ひっかけ弾き」の音色を知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。	2
再経験	箏の基本的な奏法「しっかり弾き」の音色を意識して、《さくらさくら》の表現を工夫する。	3
評 価	ペアごとに演奏を発表する。 箏の基本的な奏法「しっかり弾き」の音色についてのアセスメントシートに答える。	

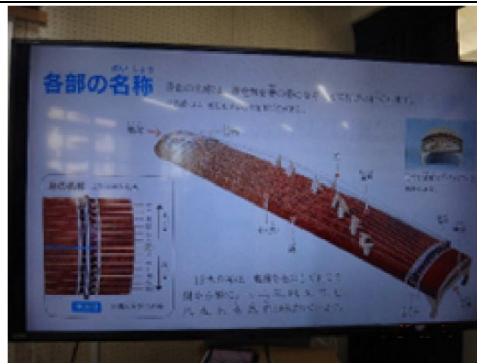
7. 単元目標・評価規準：

評価の観点	単元の評価規準	具体の学習場面における評価規準
知識・技能	箏の基本的な奏法「しっかり弾き」の音色について理解し、イメージが伝わるように《さくらさくら》を弾く。	★①「しっかり弾き」の音色を意識し、そこから生じるさくらのイメージが伝わるように《さくらさくら》を弾いている。 ★②アセスメントシートに用語についての理解を示している。
思考・判断・表現	箏の基本的な奏法「しっかり弾き」の音色について知覚し、そこから生み出される特質を感受する。 箏の基本的な奏法「しっかり弾き」の音色を意識し、イメージが伝わるように表現を工夫する。	①「しっかり弾き」の音色を知覚・感受している。 ★②「しっかり弾き」の奏法と音色を意識し、自分がイメージした桜の様子が伝わるように表現を工夫している。 ★③「しっかり弾き」の奏法と音色を意識し、イメージが伝わるように工夫したことをアセスメントシートに書いている。
主体的に学習に取り組む態度	箏の基本的な奏法「しっかり弾き」の音色に関心をもち、意欲的に《さくらさくら》を弾く。	①箏の奏法に関心をもって意欲的に「しっかり弾き」で箏を弾いている。 ★②「しっかり弾き」の音色に関心をもって意欲的に《さくらさくら》を弾いている。

★は単元での子ども一人ひとりの最終的な評価を行うための評価場面を示している。

8. 展開：

活動のねらい	子どもの活動	指導者の活動	評価
経験	爪のつけ方と基本的な奏法「しっかり弾き」の弾き方を知る。 ペアで交代しながら、爪をつけて《さくらさくら》を弾く。		
■《さくらさくら》を探り弾きさせる。	1. ペアで《さくらさくら》が箏で弾けるように歌いながら音を探す。 	●「みなさんは、桜というと、どんな情景を思い出しますか」と問い、桜にまつわる過去の経験等を想起させる。 ●「日本人にとって桜は、昔から春の象徴で、馴染み深い花ですね。そんな桜を題材にした歌を、小学校4年生の時に歌ったのを覚えていますか？《さくらさくら》という曲です。一緒に歌ってみましょう。」と言って歌詞を掲示し、口ずさむように促す。 ●「小学生の時は歌として勉強したと思いますが、実は、この曲はもともと、お箏の初心者のために作られた練習曲なのです。ですので、今日は《さくらさくら》をお箏で弾きます。」と言って、文化的背景とかかわらせて活動目	



T: 途中まで音を探していて、何か気づいたことはありますか。

S1: 「のやまもさとも～」と「かすみかくもか～」は音が同じじゃない？

S2: ホントだ！

T: みんな、Sさんの発見についてはどうですか？

S3: ホントだ！同じだ。

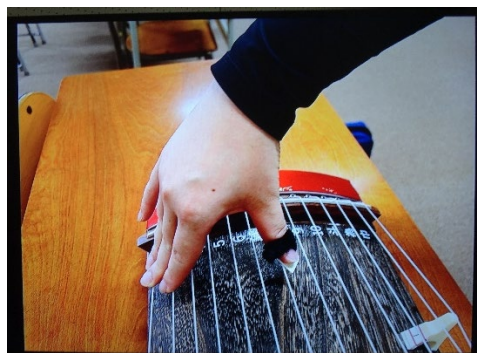
T: そうですね。いいところに気づきましたね。



■ 爪の付け方と箏の基本的な奏法を大まかにとらえさせる。

2. 爪を付けて「しっかり弾き」で七の弦を弾く。

T: これまでは指で弾いてきましたが、お箏は爪をつけて弾きます。みんなも爪をつけて弾いてみましょう。



標を提示する。

● 七＝ラでおおまかに調弦したお箏を配る。

● 爪、琴柱、絃の名称等、箏の基本情報について図を掲示して確認させる。

● 「歌は七から始まり、最初は七七八 七七八となりますので、続きを探して《さくらさくら》をお箏で弾けるようにしましょう」と言って歌詞のみ入った縦譜を配付し、ペアで音を探し数字を記入していくよう促す。

● つくった数字譜を全体で共有する。

「お箏の音楽は、昔から絃の数字を縦に並べた楽譜を使って書かれているのです。」

● 数字を全員で歌うよう促す。

● 親指にのみ、爪をつけるように促す。

● 龍角の延長線上に自分の右腰がくるように座らせ（立たせ）たうえで、箏に向かって左 45° に向くように促す。

● 見本の写真を掲示したうえで、手は卵を握るような形にし、龍角から 2～3 cm の七の絃に爪を 45 度の角度で当て、六の絃に向かって押すように促す。

● 何度か弾いたらペアで交代させる。

■爪をつけた状態でおおまかに《さくらさくら》を弾けるようにさせる。 ■箏の音色に意識を向けさせる。	3. ペアで交代しながら、《さくらさくら》を弾く。  4. 箏で演奏した時の感じについて話し合う。	●手の形や弾き方を意識させるようにはするが、完璧を求め過ぎないようにする。 ●ペアでの活動の際、自分が弾かない時は、絃の番号を旋律に合わせて歌ったり、手の形や絃への爪の当て方、姿勢等についてお互いに見合ったりするように促す。 ●「歌った時と箏で弾いた時とは桜の感じが変わったかな」と問い、自由に発言させる。	主体的に学習に取り組む態度①（観察）
分 析	箏の基本的な奏法「しっかり弾き」と「ひっかけ弾き」の音色を知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。		
■箏の基本的な奏法「しっかり弾き」の音色を知覚・感受させる。	5. (ア) と (イ) の《さくらさくら》を比較聴取し、気づいたことや感じたことをワークシートに記入する。 	●「弾き方が変わると桜のイメージは変わるでしょうか」という問いを出してから比較聴取させる。 ●手元にパーテーションを立てて教師が演奏する。 ●子どもに目を閉じるように促し、(ア)「しっかり弾き」の《さくらさくら》と(イ)「ひっかけ弾き」(爪で絃を上へひっかけるように弾く)の《さくらさくら》の演奏を聴かせる。	思考・判断・表現①（ワークシート）

■知覚・感受した内容を共有させる。

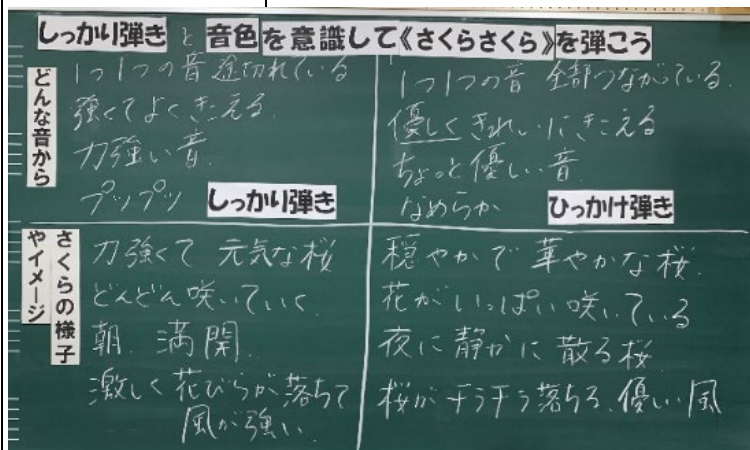
6. ワークシートに書いた内容について発表し合い、イメージを広げる。

S: (ア) は、はっきりした音で立派な桜の木のイメージだけど、(イ) は、軽い音で花卉が散っているみたい。

S: (ア) は桜が満開で華やかだけど、(イ) は花があまり咲いていない。

T: (ア) と (イ) はどんな音?

S: (ア) は力強いバンって音で、(イ) は優しいポンポンって音。



■箏の基本的な奏法を定着させ、イメージを表現するための手がかりを得させる。

7. ペアで交代しイメージを意識して「しっかり弾き」で《さくらさくら》を弾く。

T: お箏を演奏するときには、このような『しっかり弾き』をすることが基本になります。

T: では、たとえば「満開の桜」のイメージで弾くにはどうしたらいいと思いますか?

S: 少し強く弾いたらいいと思います。

T: じゃあ、みんなで少し強く弾いてみましょう。

●(ア)(イ)の演奏に対する子どもの発言を知覚と感受に分けて板書する。

●「みんながこれまで弾いていたのはどっちかな?」と問い、(ア)であったことや奏法によって音が変わることを取り上げ「音色」という用語を押さえる。

●(ア)(イ)の奏法に対して子ども達の意見を取り入れてそれぞれに「しっかり弾き」「ひっかけ弾き」というように用語を示す。

●「しっかり弾き」が箏の基本の奏法になるということを伝える。

●板書の中から「しっかり弾き」によるイメージをピックアップし、そのイメージを意識して演奏させる。

●演奏後にどんなことを意識して演奏したかについて発表させ、その工夫についてクラス全員で演奏して試してみる。

再経験	箏の基本的な奏法「しっかり弾き」の音色と奏法を意識して、《さくらさくら》の表現を工夫する。		
■表現の工夫への手がかりを基に、自分たちのイメージに合った表現を工夫させる。 ■作品の交流を通してイメージを伝えるための工夫への手がかりを得させる。 ■表現の工夫へのヒントを得させ、意欲を喚起する。	8. 「しっかり弾き」の音色によってもったイメージが表現できるようにペアで演奏する  S1: Aくん、どんなイメージ？ S2: ぼくは立派な桜の木。 S1: 私は満開の桜。 S2: じゃあ、ぼくらは立派な桜の木が満開になっているイメージにしようか。 S1: いいね。じゃあ、一緒に弾こう。	●まずペアでワークシートを見合い「しっかり弾き」の音色によるイメージを共有するように促す。 ●2つのペアで1組になり、ペアごとに交代して箏を使うようにさせる。 ●状況を見て団扇太鼓等で拍をとる。	★主体的に学習に取り組む態度②（観察） ★思考・判断・表現②（観察）
	9. 中間発表をする。 T: ○○さんのペアに中間発表してもらいます。まずはイメージを言って、どんな工夫をしたか教えてください。伝わるかな？みんなは目を閉じて聴きましょう。 S: 満開できれいに咲いている桜です。♪（演奏する） T: では、聴いた感想を教えてください。 S: 満開のきれいな桜がイメージできました。 T: どうしてそう思ったの？ S: しっかり弾きで音がはっきりしていて立派な桜の木がイメージできたから。 T: なるほど。拍手！	●工夫が顕著な班を1～2ペア抽出し、イメージを発表させてから演奏させる。 ●抽出ペアの発表を聴く際は、イメージを思い浮かべながら聴くように促す。 ●工夫されていた表現に気づかせ、状況に応じて全員で演奏するように促す。	
	10. 中間発表によって得たヒントを参考に、さらに自分たちの表現を工夫していく。	●発表されたペアも参考にしながら、ペアとして繋げた前奏を完成させるように伝える。	
評価	ペアごとに演奏を発表する。 箏の基本的な奏法「しっかり弾き」の音色についてのアセスメントシートに答える。		
■作品の交流を通して他者の作品のよさに気づかせる。	11. ペアごとに発表していく。	●各ペアの表現したいイメージとその工夫を板書しておき、板書を見ながら発表を聴くように促す。 ●それぞれの演奏に対し、イメージが伝わったかどうか、話し合う。	★知識・技能①（演奏）

■ 箏の基本的な奏法と音色についての振り返りをさせる。	1 2. 箏の基本的な奏法に関するアセスメントシートに記入する。	●ペアでイメージした桜の様子と、それを表すためにどんな工夫をしたのかについて記入するように促す。 ●事前に録音済みの(ア)「ひっかけ弾き」の《どちらにしようかな》と(イ)「しっかり弾き」の《どちらにしようかな》の演奏を聴かせる。	★思考・判断・表現③（アセスメントシート） ★知識・技能②（アセスメントシート）
------------------------------------	---	--	--

◎本学習指導案は、以下の学習指導案を参考にしている。

小島律子（2015）「プログラムⅡ－1 爪をつけて2つの音で基本奏法をする」『義務教育9年間の和楽器合奏プログラム－生成の原理の立場から－』黎明書房，pp.32・34

参考文献

嶋田由美（2002）「唱歌『さくらさくら』の研究－その成立過程と学校唱歌教材としての変遷をめぐって」『音楽教育学第32巻第2号』 pp.1・14

(しっかり弾き) と (音色) を意識して《さくらさくら》を弾こう
 () 年 () 組 () 番 名前 ()

	(ア)	(イ)
どんな音からう?	かっよい感じ。ちよとかたゝ音	(イ)のほうか響いていた。 やわらかいふわとした音
さくらの様子やイメージ	さくらの花が公園にいっぱいさいている。でもあつ風がふかなくて、花がさくはうとしかまていない。	風にふかれてさくらの花びらがはらはらとまている。アよりもまてい感じ。

(しっかり弾き) と (音色) を意識して《さくらさくら》を弾こう
 () 年 () 組 () 番 名前 ()

	(ア)	(イ)
どんな音からう?	ダンダン <u>強くともひびいている音。</u> 音色	ピンピン <u>優しく少しずっひびいている音。</u> 音色
さくらの様子やイメージ	桜の花びらが風で散っているが残っている。花びらが強く落ちないようなイメージ。	咲き初めてとてもキレイで風が吹いたら少し飛んでくるようなイメージ。

アセスメントシート

「しっかり弾き」の音色を意識してお箏をひこう

1年 組 番 名前

- 自分たちのペアでイメージした桜のようすと、そのためにどんな工夫をしたかを書きましょう。

私は（満開で元気）

な桜の様子やイメージをあらわすために、

（はっきり、大きな音を出す）

という工夫しました。

- 今から2種類の《どれにしようかな》を聴きます。

それぞれどちらのひき方の音色ですか。合っていると思う方に○をつけましょう。

また、それぞれどんな気持ちで選んでいるのか、イメージしたことを書きましょう。

①の《どれにしようかな》	②の《どれにしようかな》
ア. しっかり弾きの音色 ① ひっかけ弾きの音色	ア. しっかり弾きの音色 イ. ひっかけ弾きの音色
気持ちやイメージ 少しだるそうなのネガティブな思考の人っぽい。 「早くめたい……」って言うそう。	気持ちやイメージ 元気でポジティブな思考の人っぽい。 「どっちになるかな……」って言うそう。

「しっかり弾き」の音色を意識してお箏をひこう

1年 組 番 名前

■自分たちのペアでイメージした桜のようすと、そのためにどんな工夫をしたかを書きましょう。

私は（ 桜が1くごんまゝにいるよう ）

な桜の様子やイメージをあらわすために、

（ 強くひびくように 沢のけんにおしあて ）

という工夫しました。

■今から2種類の《どれにしようかな》を聴きます。

それぞれどちらのひき方の音色ですか。合っていると思う方に○をつけましょう。

また、それぞれどんな気持ちで選んでいるのか、イメージしたことを書きましょう。

①の《どれにしようかな》	②の《どれにしようかな》
ア. <u>しっかり弾きの音色</u> イ. <u>ひっかけ弾きの音色</u>	ア. <u>しっかり弾きの音色</u> イ. <u>ひっかけ弾きの音色</u>
気持ちやイメージ <u>まよっていろいろなイメージ</u>	気持ちやイメージ <u>沢よりいろいろなイメージ</u>